


CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



2023年6月6日、ルサカのタージ・バモジホテルで開催された合同調整委員会(JCC)の議長を務める保健省のジョージ・シンヤングウェ次官(ドナー調整担当)。(写真左から 法月正太郎プロジェクトチーフアドバイザー、ルサカ州保健局ブシンプワ・タンバタンバ局長、保健省ドナー調整担当ジョージ・シンヤングウェ次官、国際協力機構(JICA)ザンビア事務所 米林徳人所長、在ザンビア日本大使館森高志二等書記官。)

<p>第2回 合同調整委員会</p> <p>プロジェクトの進捗状況 と地方分権化の議論</p>	<p>トリアージ研修</p> <p>マテロ、チバタ、チャワマ 一次レベル病院にて</p>	<p>ザンビアの人々への お別れメッセージ</p> <p>「Tiyende Pamodzi」 原隆専門家</p>	<p>フォト・フォーカス</p>	
--	---	---	-------------------------	---

合同調整委員会にて プロジェクトの進捗と地方分権について議論



合同調整委員会の集合写真

2023年6月6日、ルサカのタージ・バモジ・ホテルで第2回合同調整委員会(JCC)ミーティングが開催されました。保健省のジョージ・シンヤングウェ次官が議長を務め、JICAザンビア事務所の米林徳人事務所長、日本大使館の森高志二等書記官、ルサカ州保健局タンバタンバ局長、保健省職員、ルサカ州保健局(PHO)とルサカ郡保健局(DHO)の職員、対象5病院の院長、JICA事務所スタッフ、カシオペアプロジェクトメンバー総勢33名が出席しました。

冒頭、タンバタンバ局長は、JCCはプロジェクト・ディレクターを議長とし、保健省(MoH)、ルサカ州保健局(LPHO)、ルサカ郡保健局(LDHO)、5つの対象病院、そしてJICAから構成されるプロジェクトの意思決定機関であることを説明しました。

続いて米林事務所長は、プロジェクトの課題とその解決方法、今後のプロジェクトの進め方について議論するという委員会の目的を述べ、JICAと保健省には長い協力の歴史があり、JICAがザンビアの保健セクターを通じて提供した様々な技術協力プロジェクト等を通じてそれを見ることができると説明しました。

2021年からルサカ郡の5つの1次レベル病院の経営を支援するプロジェクトが開始され、技術支援を通して、質の高い医療サービスを地域社会に提供することに貢献しました。特に、管理・保健分野に関する情報共有、能力開発を支援し、5つの病院の状況を改善してきており、JICAは今後もルサカ州保健局と保健省の双方を支援し、協力してプロジェクトを成功させること

を強調しました。

保健省のジョージ・シンヤングウェ次官(ドナー調整担当)は、JICAの保健セクターへの貢献に感謝するとともに、医療施設、ルサカ州保健局、郡保健局、保健省への継続的な支援に謝意を表明しました。

地方分権プロセスがプロジェクトに与える影響、活動報告、プロジェクト改善のためのPDMの修正に焦点を当て、概要が説明されました。ザンビア政府は、持続可能な開発のため、単一国家内で市民主導の地方自治を行うというビジョンを掲げ、地方分権化政策に着手しています。ザンビア政府は、地方分権政策に着手していることを認識し、これにより、施設によるコミュニティへのサービス提供が効率的に行われるようになり、コミュニティが参加し、代表者がサービス提供について責任を負うことができるようになると付け加えました。

法月正太郎チーフ・アドバイザーによるプロジェクトの概要説明と、ルサカ州保健局のシニア・スタッフによるプロジェクトの活動と成果についてのプレゼンテーションが進行しました。また、地方分権プロセスに関する議論もなされました。

最後に、ジョージ・シンヤングウェ次官から、プロジェクトを通じて、ザンビアとJICAが他の多くの分野でも継続的に支援してくれていることへの感謝の言葉が述べられ、ザンビア政府がこのプロジェクトに加えて他のプロジェクトにおいても日本との協力を続けていくことが約束されました。



会議の冒頭で挨拶するルサカ州保健局
ブシンプワ・タンバタンバ局長



会議で挨拶するJICAザンビア米林徳
人事務所長



ルサカ州保健局関係者とJICA専門家



ケーキと花束を受け取る原隆専門家

マテロ、チパタ、チャワマ病院でトリアージ研修

トリアージとは、迅速な治療が必要な患者と安全に待機できる患者を区別し、患者の重症度に応じて限られた資源の中で医療処置の優先順位を決めることで、救急医療にとってとても重要な概念です。優れたトリアージ・システムは、救急や外来で患者の流れを整理するのに役立ちます。

カシオペアプロジェクトの支援の下、1次レベル病院と大学教育病院(UTH)の共同交流プログラムでは、2023年5月31日から6月1日まで、マテロ、チパタ、チャワマの3つの病院で、UTHの医師によるトリアージ研修が行われました。

トリアージ研修は、患者の緊急対応全般を強化するために開催されました。トレーニングでは、トリアージ

は患者到着後できるだけ早く行われ、患者の命を救うために登録が遅れてはならないことが強調されました。

トリアージは救急部門において、アクセスしやすい場所で、スピードと徹底性のバランスを考慮して統一されている必要があり、臨床行動の指針となるように色を割り当てます。例えば、赤は到着後すぐに、黄色は迅速な評価を、緑は治療エリアで待機し診療可能になれば診療するというような枠組みです。

研修後、参加者は、トリアージ時の患者の待ち時間を短縮するという目標を達成するために、他のスタッフへの指導を開始し、自分自身の能力向上に取り組むことにとっても意欲的でした。



マテロ1次レベル病院の看護師と臨床医に指導を行うジンバ・ヤボカ医師

UTH病院 カプト・ンタラシャ医師インタビュー



チパタ病院でのトリアージ研修中の大学病院(UTH)のカプト・ンタラシャ医師

UTHの救急部門のトリアージ研修ファシリテーターの一人であるカ

プト医師はインタビューの中で、チパタ1次レベル病院の救急部門に患者をトリアージし、管理するためのシステムがあることに感銘を受けたと語りました。

救急患者を管理する場所が限られている、設備が不足している、特定の設備の使い方を指導する人がいないなど、多くの課題を抱えながらも、可能な限り最善の方法で患者を管理しようと最善を尽くしています。

さらに、患者が来院したときや転院の準備をするときに効果的な管理ができるように、特定の機器の使用方法についてスタッフを訓練する必要があると付け加えま

した。彼女の希望は、病院の他の部屋を救急部門に再利用し、来院した患者や施設から他の紹介センターへの患者の受け入れに効果的に対応できるようにすることです。

彼女は、参加者が研修を受け、患者をよりよく管理するために、その作業を実行する意欲があることを喜びました。

最後に、チパタ1次レベル病院医務総監のマタア・モーゼス・マタア医師は、病院は救急治療室のスペースを拡張するプロジェクトを実施しており、救急治療室の利用可能なスペースを拡大していると述べました。

「Tiyende Pamodzi」

原隆専門家からザンビアの人々へお別れのメッセージ

マテロ病院に勤務していた時、「対象となる5つの病院を質の高い医療サービスが提供できる、コミュニティにとって宝箱のような存在にしたい」とJICA事務所に説明しました。

本プロジェクトを通じて私の願いが叶いました。このプロジェクトは常に私の情熱であり、カシオペア・プロジェクトのもとで、病院運営管理の分野で働くことを誇りに思いました。このプロジェクトが、病院を通じて人々の役に立ち続けることを本当に嬉しく思います。

最後に、私がザンビアで最も好きな言葉は、ザンビア共和国ケネス・カウ ندا初代大統領のスローガンである「Tiyende Pamodzi」です。この言葉は、異なる人々を結びつけ、目標を達成するために協力することを奨励するものです。日本の人々がザンビアの人々と協力し、Tiyende Pamodziの精神を通して、ザンビアの人々に質の高い医療を提供することを願っています。



挨拶をする原専門家

フォト・フォーカス



チャワマ1次レベル病院で廃棄物分別の指導標識を設置するニャンガ専門家



研修参加者へトリアージの重要性を説明する法月チーフ・アドバイザー



トリアージの重要性を説明する法月チーフ・アドバイザー



医療機器管理と定期報告について講演する塩田専門家



チバタ病院管理技術委員会にて医薬品速報リストを説明する塩田専門家



薬局のアレンジメントを議論するチレンジ病院の塩田専門家



6月に新しく赴任した緒方業務調整専門家

編集・デザイン: エレン ムティナ チピリピリ
編集: 緒方 敬
編集長: 法月 正太郎

連絡先
法月正太郎 ルサカ郡病院運営管理能力強化
プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka,
10101, ZAMBIA